

インフルエンザ予防接種を受ける前に

1. インフルエンザワクチンについて

インフルエンザワクチンは、免疫をつけ死亡者や重症者の発生をできる限り減らすことを目的に接種するものです。予防接種をしたからといって、感染しないわけではありません。ワクチンは一定の効果が期待される一方、リスクも存在します。皆様一人ひとりがワクチン接種の効果とリスクをご理解いただいた上で、接種を受けていただくようお願いします。

2. 有効性・安全性について

現在、国内で使用されているインフルエンザワクチンの効果については、重症化や死亡の防止について一定の効果(注)がありますが、感染防止に対しては効果が保証されるものではありません。また、極めてまれではありますが重篤な副作用も起こります。(7. 副反応について参照)

注: ワクチンの有効性については、高齢者では、34～55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったと報告されている。

3. 接種を控えるべき方について

次のいずれかに該当すると認められる場合には、予防接種を受けることができません。

- (1) 明らかな発熱がある方(一般的に体温が37.5℃を超える場合)
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3) 過去にインフルエンザ予防接種で接種後2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを疑うような症状がみられた方
- (4) インフルエンザワクチンの接種を受けて、アナフィラキシーショック(注)を起こしたことがある方
- (5) 前記に掲げる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態であると医師に判断された方

注: 接種後30分以内におこるひどいアレルギー反応で、発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応

4. 接種上の注意について

次のいずれかに該当する方は、健康状態や体質等を担当の医師にしっかり伝え、よく相談した上で接種を行ってください。

- (1) 心臓病、呼吸器の病気(気管支喘息を含む。)、腎臓病、肝臓病、血液の病気、発育障害等の基礎疾患を有する方
- (2) 予防接種を受けた後に、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどのアレルギー症状を疑う異常がみられた方
- (3) 今までにけいれんを起こしたことがある方

- (4) 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がおられる方
- (5) 本ワクチンの成分又は鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のもので皮膚に発しんが出たり、体に異常をきたすなどのアレルギー反応を起こすおそれのある方
- (6) カゼなどの引きはじめと思われる方(1週間以内に明らかに発熱があった方と接触した場合)

5. 用法・用量・接種間隔について

13歳以上の方は0.5mLを皮下に1回注射します。

6. 予防接種を受けた後の注意

- (1) 接種直後 30 分間は、健康状態の変化に注意しましょう。副反応の多くは24時間以内に出現します。接種部分が赤くなったり、痛くなったり、熱が出るといった副反応が起きることがありますが、通常 2～3 日で治ります。ごくまれに重い副反応があらわれることがあります。接種後に局所の異常反応、体調の変化、高熱、けいれん等の異常な症状を起こした場合には、速やかに医師の診察を受けてください。
- (2) 接種当日は、激しい運動は避け、いつもどおりの生活をしましょう。
- (3) 接種部位は清潔にしてください。当日は、入浴しても差し支えありませんが、接種した部位を強くこすことはやめましょう。
- (4) 飲酒はそれ自体で体調の変化をきたす恐れがあるので、ワクチン接種後 24 時間は避けましょう。
- (5) 他のワクチンを接種する場合の接種間隔については、医師にご相談ください。

7. 副反応について

副反応とは、ワクチン接種に伴い、ワクチン接種の目的である「免疫の付与」以外の反応が発生した場合、これを副反応と呼びます。副反応として、局所反応(発赤、腫脹、疼痛等)、全身反応(発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、嘔吐等)がありますが、通常2～3日で消失します。そのほか、ショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎、ギランバレー症候群等も重大な副反応としてまれに報告されます。なお、局所の異常反応、体調の変化、高熱、けいれん等の異常な症状を起こした場合には、速やかに医師の診察を受けてください。

8. 重篤な副反応発生時の救済制度について

ワクチン接種によって重篤な副反応、健康被害が生じた場合は、医療費及び医療手当等、予防接種法の定期予防接種に準じた一定の給付を行う制度があります。

9. その他

インフルエンザ予防接種は、肺炎球菌感染症、その他のウイルス、その他の病原体による「かぜ」(かぜ症候群)には効果はありません。